

出版情報

書名・件名	厚生白書(昭和63年版)
副書名	新たな高齢者像と活力ある長寿・福祉社会をめざして(厚生省創設50周年記念号)
編集者・監修者	厚生省

厚生白書の刊行にあたって

昭和63年版厚生白書をここに公表いたします。

厚生省は昭和63年に創設50周年という記念すべき年を迎えました。

厚生省50年の総決算ともいべき昭和63年版白書を平成という新しい時代の最初の年に発表することは誠に感慨深いものがあります。

この半世紀を振り返ってみるとき、厚生省は昭和という激動の時代の変遷とともにその時々の国民の要請に応え、その使命を果たしてきたと確信しております。戦前からの結核等の予防対策や、戦後、海外からの引揚者の援護に取り組む一方で、新しい福祉国家建設の目標に沿って行われた各種の福祉制度の創設、国民皆保険、国民皆年金の達成とその後の給付水準の改善、急激な高齢化に対応するための制度の改革等を行ってまいりました。

このような50年の歴史のうえに、我が国の経済社会は大きく発展し、平均寿命も男女それぞれ、75.6年、81.4年となり人類の夢ともいべき長寿が実現されており、これからの我が国の最大の課題は、21世紀に向けて、来たるべき高齢社会をいかに活力ある長寿社会にするかということではないかと思えます。

今回の厚生白書においては、厚生省創設50周年ということもあり、時代に対応した社会保障の発展の軌跡を辿るとともに、今後の長寿社会を展望しつつ、昨年10月に国会に提出した「長寿・福祉社会を実現するための施策の基本的考え方と目標について」に即して新しい視点に立った厚生行政の基本的方向をさぐってみました。

高齢期を迎えても社会に貢献できる一員として、長い生涯を常に社会と関わりを持ちつつ、生きがいと喜びをもって過ごすことこそ、高齢社会を明るい長寿社会とする鍵ではないかと思えます。年をとっても元気で働けることこそ幸せという国民の期待を大切に育みつつ、我が国の経済社会システム全体を活力ある長寿社会にふさわしいものとしていかなければなりません。

厚生省としても、平成という時代の幕開けとともに長寿・福祉社会の実現に向け、その歴史の新たな一歩を踏み出さんとしております。

この厚生白書が、今後の厚生行政について広く国民の皆様方の御理解と御協力を得るための一助となれば幸いです。

平成元年3月 純一郎 小泉 厚生大臣